

COMPANY PROFILE

会社案内



世界の食と暮らしを支える力になりたい

私たち日本農薬は、国内初の農薬専門メーカーとして1928年の創立以来、農薬・作物保護資材の研究開発・普及販売を中核事業に位置づけ技術革新に努め、医薬品、動物用薬品、住宅関連薬剤等、ライフサイエンス分野へ事業を拡大してまいりました。

世界人口は今後も増加し、2050年には97億人に達すると予測されており、こうした人口増加による需要拡大を支える食料の確保は喫緊の課題です。このような課題を解決する一助として、農薬・作物保護資材はこれまで以上に大きな役割を果たすことが期待されています。

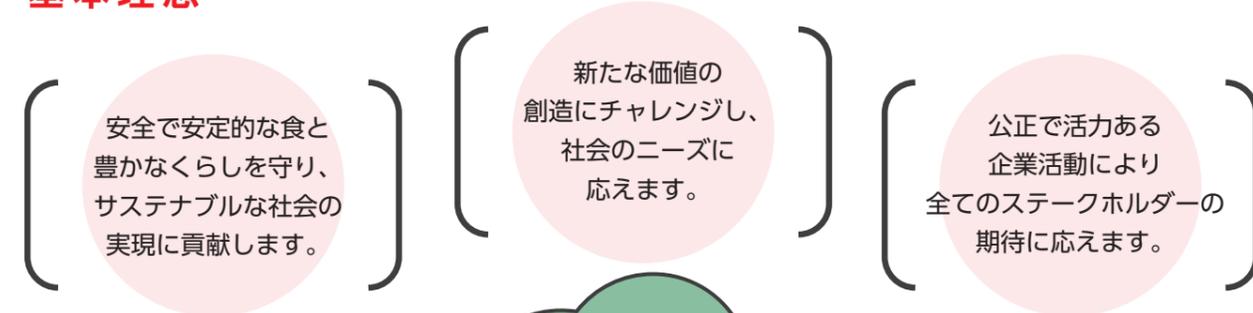
私たちは日本のみならず世界の農業の生産性向上に貢献すべくグローバル展開を加速し、コストや安全性に優れた農薬・作物保護資材の創出と提供を続けています。また、スマート農業への展開を通じて農業が抱える課題解決にも取り組んでいます。

これからも未来を支えるために、私たちは安全で安定的な食と豊かな暮らしを守り、持続可能な社会の実現に尽力してまいります。



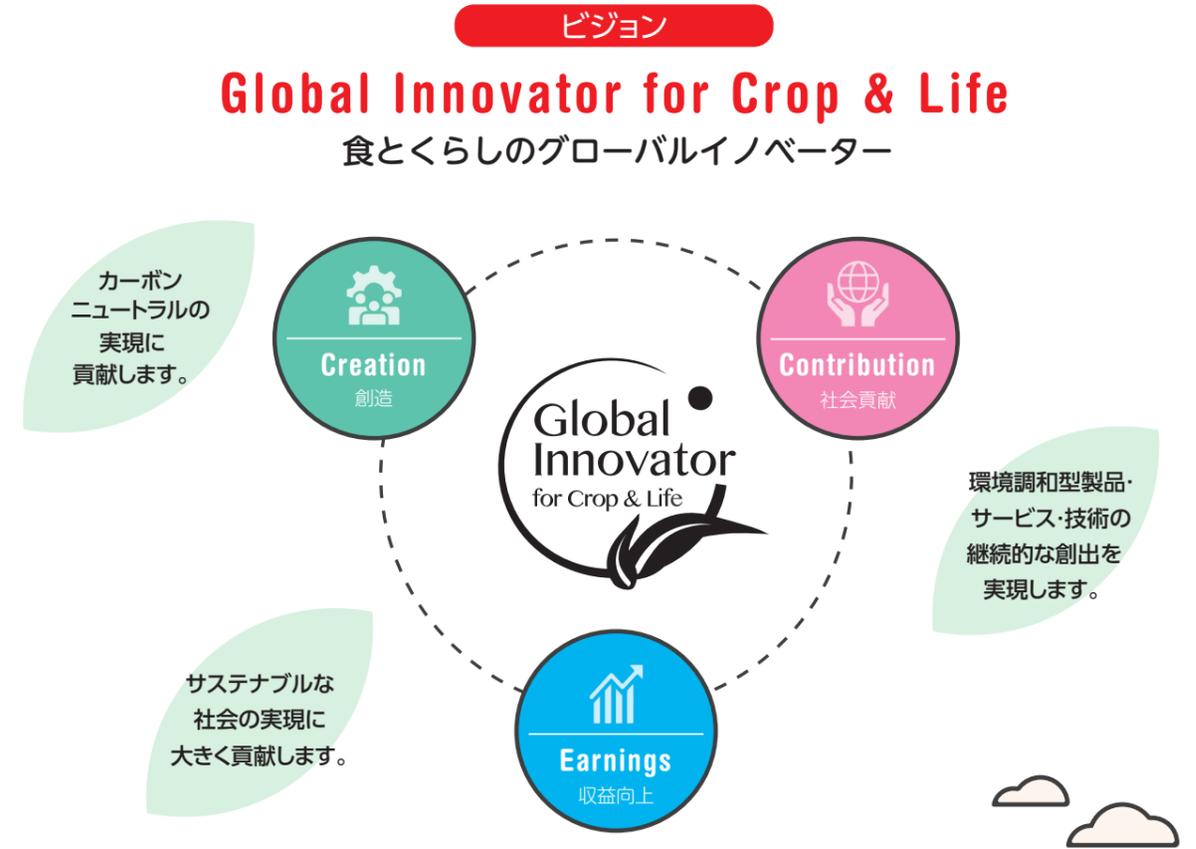
代表取締役社長
岩田 浩 幸

基本理念



私たちの目指す姿

私たち日本農薬は、『Global Innovator for Crop & Life 食と暮らしのグローバルイノベーター』のビジョンのもと、農薬・作物保護資材をはじめ医薬・動物薬など幅広い分野で社会ニーズに応え、持続可能な社会の構築に取り組んでいます。



社会持続性への貢献

サステナビリティ基本方針 「技術革新による食と暮らしへの貢献」

NICHINO グループ基本理念に基づき、技術革新による安定的な食の確保と豊かな暮らし・環境を守るべく挑戦し続け、持続可能な社会の実現に貢献します。

主な取り組み

<h4>気候変動対応</h4> <p>私たちは気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言に賛同し、気候変動が事業に与える影響を複数シナリオで分析・評価しています。その結果に基づき対応策を策定・管理し、事業実態に合わせたGHG排出量削減や省エネルギーなどの目標設定と推進に取り組んでいます。</p>	<h4>人的資本経営の推進</h4> <p>私たちは人材を「人財」と位置づけ、従業員の個性と能力を活かす環境づくりに取り組んでいます。一層のイノベーション創出に向けて、多様な価値観に合わせた働き方の実現を目指すとともに、様々な知識・経験を持つ人財の採用も積極的に進めています。</p>	<h4>SDGsの取り組み</h4> <p>私たちは、農業事業と関連事業での「技術革新」を通じ、「貧困」と「環境」という世界規模の課題解決に取り組んでいます。さらに、SDGsに関連した7つのサステナビリティ優先課題を設定し、事業活動を通じて持続可能な開発への貢献を目指しています。</p>
--	--	--

世界に広がるネットワーク

私たちは、アジア・米州・欧州の三極体制で海外拠点の拡充を図り、現在では100以上の国と地域でNICHINO グループ製品の農薬登録を取得し、積極的に開発・普及活動を展開しています。

Nichino America

果樹・野菜・綿・コメ・ナッツ類を主な対象として日本農薬が独自に発明した優れた製品を強みに、生産者に密着した普及活動を行っています。カナダやメキシコにも販売するなど事業を拡大し続け、NICHINO グループの海外戦略の中核を担っています。



Nichino Europe

ジャガイモ・果樹・野菜等を中心に顧客をサポートし、製品開発を行っています。多国籍な従業員が在籍しており、中近東やアフリカでも事業を展開しています。またInteragro社を買収するなど、成長著しいパイオスティミュラント市場へも進出しています。



日佳農薬

台湾において、コメ・茶・果樹・野菜を対象として30年近くにわたり日本農薬製品の普及販売を行い、良質な作物生産に貢献しています。生物農薬などバイオリソースの導入も視野に入れており、これからも台湾の農業発展に尽力していきます。



- 日本農薬
- 国内グループ会社
- 海外グループ会社
- 海外出資会社
- サテライトオフィス

海外グループ会社数

15社

日本発、世界へ



Sipcam Nichino Brasil

自社製剤工場を有し、高い技術力により特徴化した製品を製造・販売しています。大豆・トウモロコシ・サトウキビ・果樹・野菜を主な対象に、生産者への直接販売も拡大しています。世界の食料輸出基地であるブラジルは世界最大の農業市場でもあり、今後のNICHINO グループのシェア拡大が期待されています。



Nichino Europe Co., Ltd. Interagro (UK) Ltd. 英国・ケンブリッジ ●

Nichino Netherlands B.V. オランダ・ユトレヒト ●

イタリア ●

エジプト ●

パキスタン ●

Nichino India Pvt. Ltd. インド・ハイデラバード ●

南アフリカ ●

Nichino South Africa (Pty) Ltd 南アフリカ・ヨハネスブルグ ●

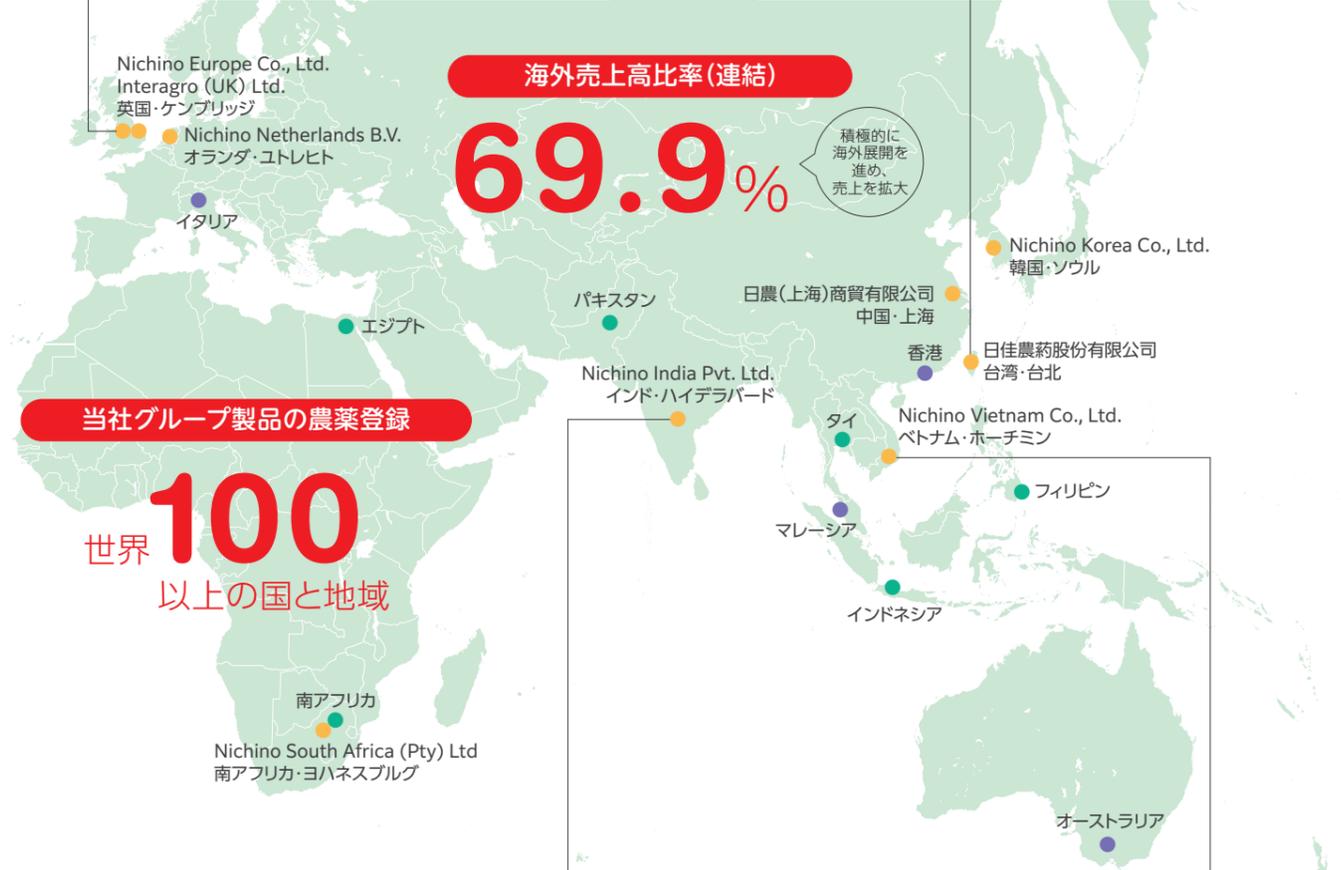
海外売上高比率(連結)

69.9%

積極的に海外展開を進め、売上を拡大

当社グループ製品の農薬登録

世界 100 以上の国と地域



Nichino India

農業市場が目覚しく成長するインドで、コメを主体に野菜・果樹などの分野を中心に販売しています。日印同時開発された水稻用殺虫剤ベンズピリモキサンをはじめ、原体製造も行っています。マルチパーパスプラントを竣工させるなど、NICHINO グループの世界的な生産拠点として重要な役割を担っていきます。



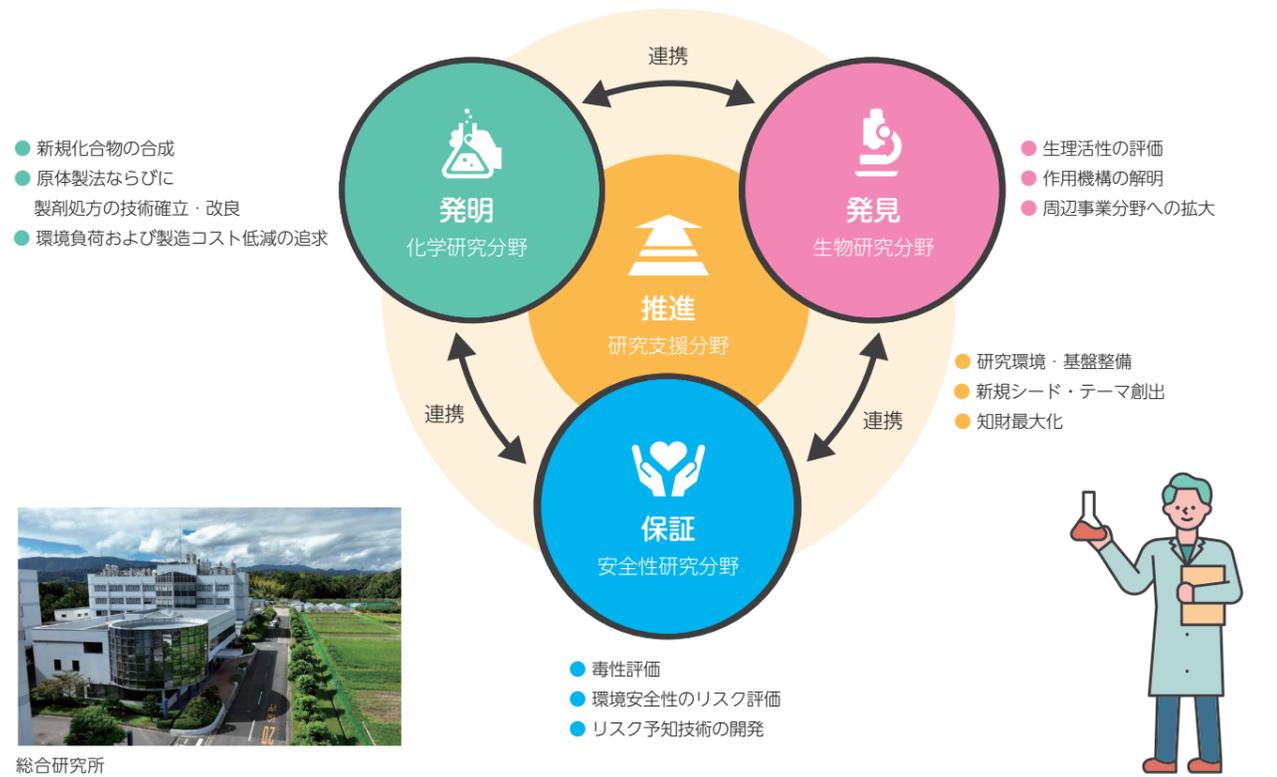
Nichino Vietnam

水稻を中心に、果樹や野菜向け製品の普及販売を行っており、近年では栽培面積が急増しているドリアン向け製品にも注力しています。ベトナムでのシェア拡大に加え、周辺国への展開を見据え、将来的には東南アジアのビジネスハブになることを目指して、事業強化に取り組んでいます。



日本農薬の研究開発力

私たちは豊かな食を支え、緑を守るため、グローバルな視野で時代のニーズに合った新しい農薬・作物保護資材を開発し続けています。その原動力となる研究開発に、継続的に売上高の約1割を投資し、新しい農薬を「3年に1剤」創出することをミッションとしています。



発明

化学研究分野

探索研究では、新規な化学構造・生理作用を有する化合物合成について、計算科学などの新しい研究手法も導入して幅広く展開しています。また、環境負荷および原体コストの低減を目的としたプロセス化学研究や、薬効を最大限に引き出すための製剤研究にも注力しています。

発見

生物研究分野

グローバルな市場情報・変化を反映した柔軟なターゲットングと様々な生理活性を検出する独自評価系により、ユニークな新規化合物の発見を目指しています。また、混合剤や新規用途開発を通じて既存剤の適用場面の最大化にも取り組んでいます。

保証

安全性研究分野

新たに発見された化合物の人・動物への安全性はもちろん、環境への影響を含めて多角的な視点から、グローバルな登録取得を目指した安全性研究を進めています。また、早期に安全性リスクを迅速に確認できる新規評価系の構築を進め、探索研究期間の短縮にも取り組んでいます。

推進

研究支援分野

創業の基盤となるデータベース構築をはじめとする研究環境の整備や、外部研究機関との共同研究・オープンイノベーション機会創出によるシード発掘、新たな事業展開を目指した研究テーマ立案などを進めています。研究開発型企業の要となる自社知財最大化を目的とした知財戦略立案も重要な役割の一つです。

日本農薬の事業領域

日本初の農薬専門メーカーとして積み重ねてきた研究開発力と信頼を基盤に、国内だけでなく海外でも積極的に事業を展開しています。自社農薬原体は24あり、多様な製品となって販売されています。また、現場の環境やニーズに合わせ、地域に密着した農薬・作物保護資材の使用技術の普及に努めています。

農薬・作物保護資材

殺虫剤 ベンズピリモキサン

当社が独自に開発した新規作用性を有する水稲用ウンカ剤。既存薬剤に抵抗性を示すウンカ類にも有効であり、天敵・有用昆虫に優しい。日印に続き、アジアにて展開予定。

殺虫剤 フルベンジアミド

昆虫の筋収縮症状を示す新規作用をもつ園芸用殺虫剤。優れた効果持続性のあるチョウ目害虫防除剤として、国内外で広く普及。

殺菌剤 イソプロチオラン

当社初の自社開発剤として1975年に発売。いもち病防除の殺菌剤や植物成長調整作用など多面的機能をもち、長年にわたり多くの場面で活用。

除草剤 ピラフルフェンエチル

グリホサート耐性雑草を含む難防除雑草に対しても、速やかに効果を発揮する優れた除草剤。ジャガイモや綿花の収穫補助剤としても広く普及。

作物保護資材 クロスバリュー

微生物の力で植物の根を活性化させ、土壌養分の取り込みを高めることで、環境ストレス耐性を強化するバイオスティミュラント。

当社製品情報は [こちらから](#)

化学品・医薬・動物薬

農薬の製造・販売をコア事業として、化学品、医薬・動物薬などにも事業を展開しています。

化学品では、家庭園芸、緑地管理、シロアリ防除向けなど幅広い製品を取り扱っています。

農薬の研究から生まれた水虫薬、駆虫薬などを国内および海外で販売しています。

農薬残留分析や造園緑化工事、不動産の賃貸なども行っています。

スマート農業への取り組み

近年、農業現場の抱える様々な課題の解決策として、先端技術を活用した「スマート農業」が期待されています。私たちは、生産者の利便性を向上させるソリューション開発に積極的に取り組んでいます。

「レイミーのAI病害虫雑草診断アプリ」は、写真1つでAIが瞬時に病害虫雑草を判別、その生態や防除方法を解説して最適な農薬を紹介するスマートフォンアプリです。図鑑や予察情報の配信など便利な機能も搭載しており、診断対象作物も随時拡大しています。また、同技術を応用して、衛生害虫管理サポートツール「レイミーのAI害虫同定計数システム」を開発しています。

数字で見る日本農薬



創立年数

97年



従業員数(連結)

1,524人



売上高(連結)

999億円



売上高研究開発費比率

9.63%



(2025年3月末現在)

会社情報 (2025年6月末現在)

商号

日本農薬株式会社

本社所在地

〒104-8386
東京都中央区京橋1-19-8
(京橋OMビル)
TEL:0570-09-1177

創立

1928年(昭和3年)11月17日

資本金

14,939百万円

主要事業内容

農薬、医薬品、動物用医薬品、
工業薬品、木材用薬品、
農業資材などの製造業、
輸出入業、販売業

取締役

代表取締役社長	岩田 浩 幸
代表取締役副社長	穴戸 康 司
取締役	郡 昭 夫
	富 安 治 彦
社外取締役	中 田 ちず子
	松 本 昇 群
	山 名 秀 夫
取締役 常勤監査等委員	山 本 秀 夫
社外取締役 監査等委員	戸井川 岩 子
	大 島 良 子
	大 谷 益 世

執行役員

常務執行役員	高 橋 史 郎
	元 場 一 彦
上席執行役員	井ノ下 順二郎
	谷 山 吉 隆
	谷 元 忠 博
	奥 村 博
	Manfred Hilweg
執行役員	石 村 功
	田 中 利 朋
	藤 岡 伸 祐
	下 山 信 行
	藤 田 恭 浩
	青 木 美也子
	山 口 博 志
	Dustin Simmons

事業所

本社
札幌支店 福岡支店
仙台支店 総合研究所
東京支店 長沼ナーセリー
大阪支店 大阪事務所

主なグループ会社

国内

株式会社ニチノ緑化
株式会社ニチノサービス
日本エコテック株式会社
株式会社アグリマート

海外

Nichino America, Inc.
Nichino Europe Co., Ltd.
日佳農葯股份有限公司
日農(上海)商貿有限公司
Nichino do Brasil Agroquímicos Ltda.
Nichino India Pvt. Ltd.
Sipcam Nichino Brasil S.A.
Nichino Vietnam Co., Ltd.
Nihon Nohyaku Andica S.A.S.
Nichino México S. de R.L. de C.V.
Nichino Korea Co., Ltd.
Interagro (UK) Ltd.
Nichino Chile SpA
Nichino Netherlands B.V.
Nichino South Africa (Pty) Ltd

当社Webサイトもご覧ください

●コーポレートサイト
<https://www.nichino.co.jp>



●サステナビリティサイト
<https://www.nichino.co.jp/csr/index.html>

